



HP <http://azalea.ac.city.myoko.niigata.jp/himega-s/>

5月

学校だより/姫川原小



メタセコイヤの如く

新緑の芽吹きの良い季節がやってきた。木々が一斉に芽を吹き出した。最高にいい季節だ。学校のシンボル「メタセコイヤ」の木も同様、美しい若葉を元気につけた。

先日、卒業生から、自身が中学生の時に作曲したピアノ組曲「ふるさとの風景画」のCDを頂いた。組曲の一曲目に「校庭のメタセコイヤ」が入っている。一曲目に母校の風景を入れ、それをメタセコイヤに託してくれたことを大変うれしく思う。組曲の構成上、プロローグとしての一曲目は、穏やかな春の日差しを浴びている中に入るような気分になさせてくれた。しかも午後の印象がする何とも言えない素敵なメロディだ。

メタセコイヤと言えば、これまでの私にとっては化石の印象しかなかった。しかし、今の子どもたちの学校自慢の一つがこのメタセコイヤの木なのだ。きっと卒業生もそうだったのであろう。針葉樹にしては冬落葉し、用務員さん泣かせの木なのだが、学校のシンボルとして堂々と円錐形の姿を品良く見せている。木造校舎から新校舎にするときに、この木を切るか切らないかアンケートをとったとの記録もあった。校舎より背が高くなったこの木は小学校の歴史を見守ってきた存在でもある。

この機会に調べてみると、絶滅したと思われていたメタセコイヤが戦後中国で見つかり、その後昭和天皇に届けられた状況から戦後復興のシンボルの木として語られていた。(和名あけぼの杉) 学校が終わりを告げる年ではあるが、あけぼのは始まりを意味する。まっすぐ伸びていこうとするメタセコイヤの如く、いつも初心に戻って上を見上げていこう。



八日、日本絵手紙協会公認講師 中村志津子先生を迎えて、絵手紙教室を開きました。

絵手紙教室は、閉校記念事業の一環として、姫川原の自然や学校での思い出の品を、「姫川原の四季」と題し絵手紙に表現していく企画です。絵手紙は和紙に描きます。そこで、卒の卒業証書を作ってきた姫川原小の特徴が生きて考えた次第です。秋には芋の絵手紙用和紙を全校で漉くことも予定しています。最後には、自分で漉いた和紙に描くことができそうです。

うれしいな！
初めての絵手紙です。



姫川原の思い出を絵手紙に

絵手紙の三つの心得を中村先生から教えていただきました。

「へたがいい！
へたがいい！」
上手にかこうと思わないで、心を込めて一生懸命にかいたものは相手の心にとどくもの。自分らしさが出るのが大切です。

「ぶつつけ本番」
下書きや練習はなし。いつでも本番。絵手紙に失敗という考え方がないので、必ずポストインしましょう。

「お手本なし」
人が作ったお手本はありません。自分の目でみたものをかきましょう。

四月二十五日、絵手紙のイメージを高めるため、中村先生からたくさん作品をお持ちいただき、まずお話を伺う機会をもちました。大きな作品や、長い巻紙や、珍しい様々なものに描かれた作品に触れ、興味を深めていきました。絵手紙とは、葉書サイズだけではないことを知りました。

五月八日、いざ初挑戦の日があつという間にやってきました。まず筆の持ち方、姿勢や線の練習から始まりました。筆の上を持ち、肘をあげながら、ゆっくり筆を動かすだけでも集中力が必要です。先生方も子どもたちの中に入り、共に初挑戦でした。みんなの描いた作品を黒板に張り出すと、大人も子供もない絵手紙の不思議な世界がそこに広がりました。一枚一枚も味わい豊かですが、集合美としても、力強く伝わるものがありました。

丁寧な心をこめて書いた絵と一言の言葉から、相手との関係が想像でき、書いたり読んだり楽しい時間を過ごしました。

絵手紙の言葉を拾う

日頃、主語・述語に気を付けた文章を書くことを要求されていた子どもたちは、今回つぶやきのように短い言葉に思いをこめる楽しさと難しさを味わいました。6年生の絵手紙から言葉を拾ってみると微笑ましいものばかりです。

- ばあちゃん、ご飯おいしいな。
- 今日も明日もご飯よろしく。
- じいちゃん、山菜ありがとう。
- 団長です！（応援団の服を描いて）
- 最後までつなぐ。（バトンの絵）
- これからもお願いします（先生へ）



今回の講師中村先生の教室で学ぶお仲間の皆様方が、糸魚川から駆けつけて下さいました。荒川の前任校でお世話になった方々です。朝早くから有り難うございます。

活動のスタート はずむ春



6年生が紙芝居を読んでもくれたり、他学年がお世話をしてくれたりした4月上旬。今では、学校探検や握手大作戦と、自分の力で一歩を踏み出した1年生です。



2年生はヨモギを摘み、3年生と一緒に団子作りで、春をスタートさせました。全校に振る舞ってくれ、幸せを分かち合いました。



ぶどう作りは、ツル縛りとツルあげ作業から始まりました。太い糸は縦、細い糸は横、上を見上げての作業は、目にゴミが入って大変。ブドウの枝から水が出ていてすごい発見です。芽がいっぱい出ていてうれしかった3年生でした。

4年生は、春まだ浅いカタクリが咲きほこる高床山へ。春の女神「ギフ蝶」を全員が確認することができ、大喜びの面々。2回目の探検では、カンアオイの葉の裏に産み付けた直径1mmの卵をついに発見！いいスタートが切れました。



米作りの5年生は、田んぼの大きさが3aと知り、肥料を均等にまくのに苦戦。まずは昔の田起こしを3本鍬と4本鍬を使い、力加減も実感。簡単そうに見えたけれど難しい。手が痛いほど固かったとは子どもたちの感想でした。



さくら学年の6年生は、卒業証書の額にも「桜」にこだわる願いをもちました。さくらプロジェクトの作業日に、桜の枝探しを兼ね参加。花が咲いていない時期の枝探しは難しかったらしく、大切に学校に運んできました。

がんばろう！ 楽しい最後の運動会 見せろ姫小魂！

5月17日(土)は、最後の運動会です。閉校後、地区合同運動会の運営を地域で行うこととなり、今年度は移行年度として、地域の内容を午後に移行しました。午後は12時40分から開会式です。地域の皆さん、ぜひおいで下さい。

